

手術による炎症、浮腫により発熱、陰嚢腫大がおきます。経過を見ていくうちに良くなることが殆どです。

3. 精巣上体炎

手術後に高熱をきたすことがあります。抗生剤を使用しますが、稀に摘出することもあります。

4. 術後の創部感染:傷の縫い直しが必要となることも有ります。

5. 陰嚢・精索水腫再発

可能性は低いですが、手術後、陰嚢・精索水腫が再発する可能性も有ります。

6. 重篤な感染症を起こす可能性が有ります。これは創部やカテーテル挿入部に限局して起こるもの以外にも、全身に感染が及ぶ敗血症などの重篤な感染症まで様々です。

7. 麻酔関連

現代でも麻酔による死亡を含めた合併症の可能性はあります。心・肝・腎機能悪化する可能性。麻酔薬とのアレルギー反応でショックの可能性が有ります。

8. 持病の悪化

術前に指摘されていた持病、術前に指摘されていなかった持病などが悪化・顕在化する可能性が有ります。

9. 術後の肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞:おもに、骨盤内や足の血管などで血液が固まったり(血栓)、皮下の脂肪が血管の中に入り込み、これが血管の中を流れて肺の血管を閉塞する、生命を脅かす重大な合併症です。この合併症は希では有りますが、最近日本人にも増えています。これを予防するために専用のストッキングを購入して頂くことをお勧めしています。このストッキングを手術中にはいていただき、必要な場合にはフットポンプで足の血流循環を補助します。術後には出来るだけ早く歩行していただくことが大切です。

10. せん妄

手術後や麻酔後の半覚醒状態に伴う意識障害により、点滴や治療のためのチューブを抜いてしまったり、転倒、転落の危険性が認識できない状態にある場合、患者さんの安全性を守るために安定剤の投与や、必要最小限の行動制限(ベッド柵の複数固定、体動センサーなど)をさせていただく場合があります。

ご年配の患者さんのなかには、入院生活や手術といった状況の変化に適応できないために、精神症状や日常生活を送るための能力が低下することがあります。このため、入院の時から退院後の快適な生活のために様々な支援が必要と考えられる時には、ご家族にご相談する時があります。

他の治療選択肢・代替医療について :

定期的な陰嚢穿刺

セカンドオピニオン・自由意思による治療の同意とその撤回・ご本人の自己決定権について :

●この説明を聞いて、本治療を受けることに同意しない場合でも、今後の診療・治療などに不利益になることはありません。

●この手術を受けることに同意し、治療を開始した後でも、考えが変わった場合にはいつでも同意を取り下げることができます。この場合も、今後の診療・治療などに不利益になることはありません。

•わからないことや確認したいこと、相談したいことがあるときは、同意の前後に関わらず、いつでも遠慮なく質問してください。

最終的な検査・治療方針の決定は患者さんご本人によってなされ、そのためにセカンドオピニオンを得る機会があります。また、予定される検査・治療に同意しない場合でも一切不利益をうけることはありません。また治療を開始した後でも、考えが変わった場合にはいつでも同意を取り下げることができます。この場合も、今後の治療や看護などの診療内容に不利益になることはありません。

以上の説明に関して不明な点は医師、看護師にお尋ねください。

説明日 @SYSDATE

同愛記念病院 @PATIENTFORMALSECTIONNAME

説明医師： @ACTIVEUSERNAME 印またはサイン 同席者： _____

私は、陰嚢内水腫根治術の目的、方法および副作用・合併症について、上記の内容を読み、また医師の説明により十分に理解しましたので、上記の検査・治療を受けることに同意します。

なお、緊急の処置・治療を行う必要が生じた場合には、適宜施行されることについて同意します。

病名(診断名) : みぎ / ひだり 陰嚢水腫 精索水腫

予定する手術名 : みぎ / ひだり 陰嚢水腫 精索水腫 根治術

手術日 : 年 月 日 (標準入院日数 4日)

同愛記念病院 院長 殿

年 月 日

本人氏名 _____ 印 ※署名がある場合は押印不要

家族等氏名 _____ 印 (本人との続柄 _____)

※本人の署名がある場合は家族等の署名は不要 ※本人が署名不能な場合や未成年者の場合には家族等の署名が必要